

事業実施報告

開催日	① 令和5年8月23日(水)～24日(木) ② 令和5年11月20日(月)		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿		
開催場所	① 国立岩手山青少年交流の家 ② 第一学院高校盛岡キャンパス	参加人数	① 35名 ② 22名
参加学校名等	① 岩手高校プログラミングコース ② 第一学院高校盛岡キャンパス (カリキュラムの一部を実施)		
関係機関名	岩手県教育委員会(後援) 富士大学附属図書館 岩手大学研究支援・産学連携センター 岩手県立大学まちづくりサークル「えんぶらり。」 紫波町図書館 盛岡市立都南図書館 岩手県立図書館		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

(1) オリエンテーション合宿(岩手高校プログラミングコース)

今年度新たに岩手高校プログラミングコースが本プログラムを採択し、コース独自の宿泊行事「アイデアソン」の中で、オリエンテーション合宿のカリキュラムを実施した。同校では、机上の学習のみならず、身近な問題の解決策を考える体験を通して、実践的な情報スキルやプログラミング的思考を育んでいくことを指導の方針としている。今回のテーマは「思わず読書をしたくなる仕組みとは？」である。具体的には、図書館の利用促進、全校の読書推進についてプログラミング的思考(課題解決の手法)を用いてアイデアを出すことである。

こうした学校の取組が充実したものとなるよう研修の支援とプログラムの提供を行った結果、91.2%の生徒が肯定的な回答を示した。全員が地方ステージにエントリーし、探究の成果をまとめることができた。

(2) オリエンテーション研修「探究入門」(第一学院高校盛岡キャンパス)

広域通信制高校である第一学院高校(盛岡)の「ゆめ授業週間」にてオリエンテーション合宿のカリキュラムの一部を実施した。通学生並びにオンライン受講生に対し、探究の基礎となるテーマの作り方としてイメージマップ等の思考ツールを用いて発想を広げる取組を行った。

【成果】

(1) 社会教育ネットワークを活かし、学校のニーズに応じたサポートとプログラムの提供ができたこと

社会教育ネットワークを活かし、紫波図書館から講師紹介や展示共催といった企画協力をいただいた。富士大の早川教授には、生徒の視野を広げる講義とともに、事業担当者が行った演習においても生徒の実情に応じながらアドバイスしていただくなど、学校のニーズに応じたサポートができた。加えて、岩手大の今井教授には研究者の立場から生徒のアイデアを称えつつ、次の学びを促すコメントをいただき、探究的な学びに対する意欲付けができた。また、岩手県立大まちづくりサークル「えんぶらり。」のメンバーには、これまでに取り組んだ地域おこしの事例発表とともに、生徒たちの中間発表に対して学生目線からアドバイスをいただいた。

(2) オリエンテーション合宿成果の発信とフィードバックによるアイデアの改善ができたこと

岩手高校の取組が岩手日報やFM岩手で紹介されたほか、YouTube動画にて合宿の成果を発信した。さらに県内公共図書館の協力のもと、成果物の巡回展示を行い、多くの方々に展示を見ていただくとともに、ウェブ上の投稿フォームにも感想を寄せていただいた。これらを生徒にフィードバックし、アイデアの改善、探究実践の意欲付けにつなげることができた。

【課題】

(1) 学習環境の整備(空調、通信環境)

研修室にレンタルの冷風機を手配し、学習環境を整えたことで、日中の研修には耐えられる状況であった。しかし、宿泊室は扇風機であったために寝苦しく、その過酷さが印象に残ったとする生徒もいた。空調設備の整備が急務である。利用可能なwifiエリアを広げているものの、そのスペックには課題が残るため、今回はレンタルwifiに対応したところ、研修内容に応えられるネットワーク環境を提供できた。引き続き学習環境の整備に努めたい。

(2) 多様な校種や課程の参加促進

全国的な傾向として地域探究プログラムの参加校は、公立校、全日制が多い。本当の意味で、高校生生活体験顕彰制度としていくには、私立校、定時制通信制等の生徒も参加できるように広報することが求められる。その意味で、広域通信制の第一学院高校において研修実施に至った意義は大きく、他施設でも同様の取組が実施できるよう今回の事例を共有していきたい。

状況写真



公共図書館の事例を紹介
(講座担当:富士大 早川教授)



グループで発想を広げる
(講座担当:テンパークスタッフ)



県立大「えんぶらり。」の発表・交流



ポスターセッション・講評
(講評:岩手大 今井教授)



記念撮影(受賞グループ)



第一学院高校にて「探究入門」

事業実施報告

開催日	令和6年1月20日（土）～21日（日）		
事業名	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 地方ステージ		
開催場所	国立花山青少年自然の家（主管施設）	参加人数	21名
参加学校名等	岩手高校プログラミングコース		
関係機関名	岩手県教育委員会（後援）		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

今年度、オリエンテーション合宿（以下OR合宿）に参加した岩手高校の生徒全員が探究の成果を実践報告書としてまとめ上げ、地方ステージにエントリーすることができた。審査の結果、4グループ21名が地方ステージにて発表する機会を得た。探究成果を発表するとともに県外高校生と交流を通して親睦を深め、互いの取組について意見を交わす姿を見ることができた。

【成果】

（1）探究の取組を各方面で発信して自信を得たこと

今年度はOR合宿で取り組んだ課題解決策をパネルにまとめ、県内公共図書館にて展示を行った。企画協力していただいた紫波町図書館では展示期間中に図書館関係者の研修会があり、その方々から投稿フォームを通じて感想等を寄せていただいた。盛岡市立都南図書館では「読書週間」の一環として展示を紹介していただき、その様子が地域紙でも報道された。岩手県立図書館ではコースコーナーにて書評企画と合わせて1か月近く展示していただいた。展示をご覧になった方々からウェブ上で意見・感想等を寄せていただき、探究の取組に活かすことができた。OR合宿に参加した生徒全員が実践報告書をまとめ上げ、地方ステージのグループ部門にエントリーすることができた。

（2）交流を通して探究の成果を発表する場を提供できたこと

地方ステージに参加するにあたっては、上記の展示、体験入学等での発表を通して聴衆の意見等を取り入れながら改善を積み重ねてきた。初出場でありながら、他県の高校生等を前に堂々と自分たちの探究成果を発表した。

東北ブロックの地方ステージにおいて私立高校が出場したのは岩手高校が初となる。公立校だけでなく、私立校も本プログラムに参加できた意義は大きく、多くの高校生に開かれた事業となった。

主管施設の花山青少年自然の家職員がファシリテーターとなって交流会をすすめた。初めて出会った高校生が打ち明け合い、コンセンサスゲームに取り組む姿に対し、引率教員から「生徒の成長が見られた」旨のコメントを寄せていただいた。多様な人々と議論しながら納得解を導き出す経験は貴重であり、思考、感情双方の交流ができる場を提供できたと考える。交流を通して親睦を深めたことにより、探究の発表に対して高校生自らが質問し意見を交わす姿も見られた。

【課題】

（1）学校の実情に合ったエントリー要件とシステムの検討

OR合宿の実践活動では、生徒5～8名に対して支援者1名を充てるとの規定があり、1グループ生徒6名で探究を進めてきた。しかし、地方ステージのエントリー規定は1グループ5名までとなっていたため、その規定をめぐって混乱が生じた。他の探究コンテストでは人数制限がなく、学校の実情に応じてエントリーできるところが多い。探究アワードとして厳格な審査は重要ではあるものの、より学校の実情に合ったエントリー要件とシステムが望まれる。

（2）制度理解のための丁寧な説明

3年ぶりの参集開催にあたって、主管施設の花山青少年自然の家は高校生が集う価値のあるプログラムを提供できるよう配慮されている様子が随所で感じられた。強いて課題を挙げるとすれば、個人部門のエントリーが3組と少なかったことである。制度として個人部門があることも丁寧に説明し、多くの高校生が探究の成果を発表できるようにしたい。

状況写真



I 探究の成果を発表



II 交流会の様子「キャッチ！」



III コンセンサスゲームに取り組む



IV 奨励賞を受賞



V 記念撮影(岩手高校チーム)



VI 記念撮影(参加者全員)